

サプライヤー 向け持続可能性 ガイド

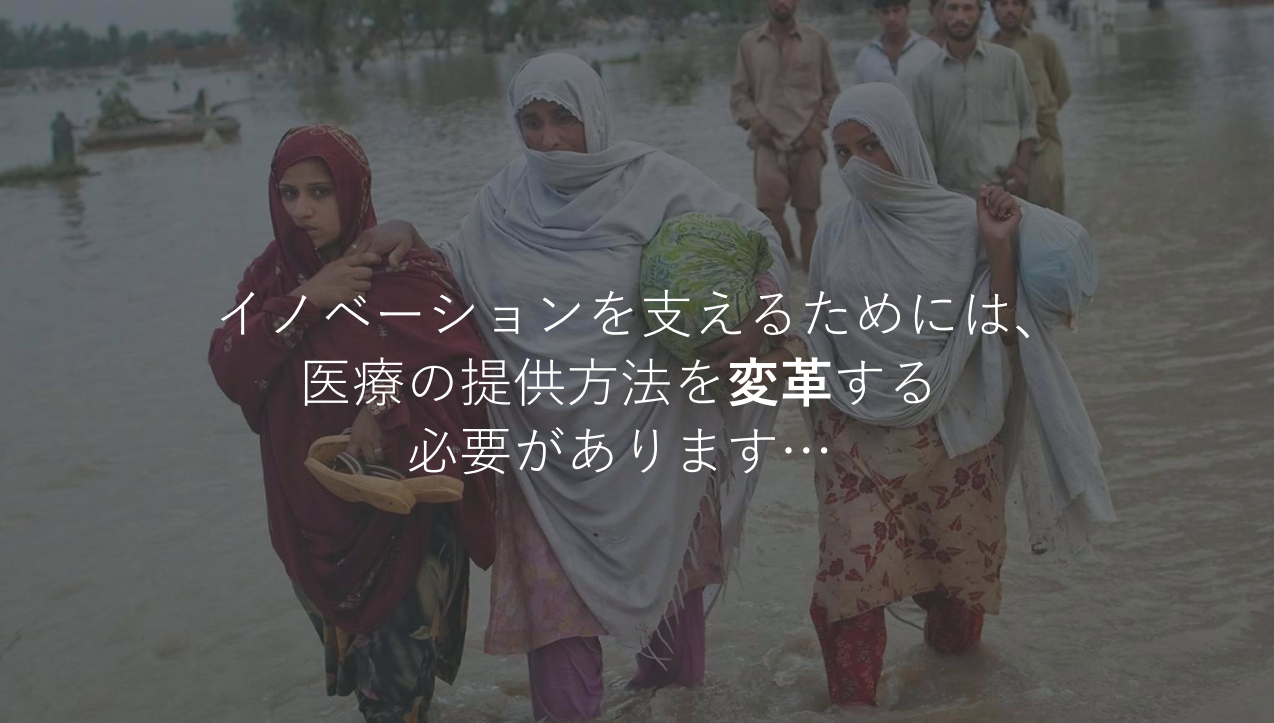
AstraZeneca のサプライヤー最低要件に
関するガイダンス

および

持続可能性におけるリーダーシップの
ベストプラクティス

2026年4月






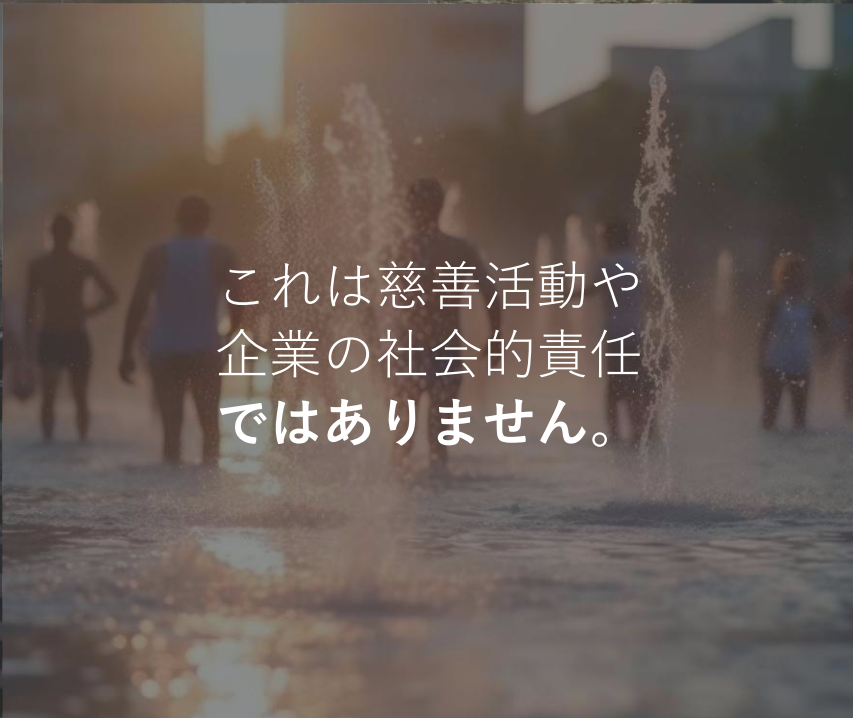
イノベーションを支えるためには、
医療の提供方法を**変革**する
必要があります…




人々、社会、そして
地球の健康のために。



正しい行動なのです。



これは慈善活動や
企業の社会的責任
ではありません。



これは**ビジネス上**
きわめて**重要**であり、
私たち**全員**の責任です。



AstraZeneca のサプライヤー向け持続可能性ガイドへようこそ

サプライチェーンに属する企業である皆様は、サプライチェーンのレジリエンスを高めながら、世界中の患者に重要な医薬品を途切れることなく届けることを通じて、AstraZeneca がより持続可能なビジネスへ移行する上で不可欠な存在です。

本ガイドでは、これらの目標達成を支える最低要件を示すとともに、望ましい水準を明確にし、実践的な支援を提供し、貴社にとって最も重要なステップの優先順位付けを支援します。本ガイドは網羅的なものではなく、持続可能性の要件を満たすためには、各社において独自のプログラムを設計する必要があります。

本ガイドの使い方：

- **セクション 1：概要** — **要件**（交渉不可であり、契約に含まれる、または法規制に基づくもの）、**期待事項**（ベストプラクティスとして、または要件達成の手段として強く推奨されるもの）、**支援プログラム**（業界イニシアチブおよびネットワーク）、ならびに **ビジネスケース**（AstraZeneca と業界期待との整合性、および **脱炭素プログラムがネットゼロ達成に向けた道筋のどこに位置付けられるかを含む**）。
- **セクション 2：最低要件の達成に向けたステップバイステップの手引き** — **SBTi**、**EcoVadis**、**CDP**、**AstraZeneca に割り当てられた排出量に関する脱炭素計画**、**労働権および人権**、**インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)**、**持続可能な調達**に関する **SME 向け支援**を含む。
- **セクション 3：最低要件を超えて** — **人権**、**再生可能電力およびクリーンヒート**、**製品/拠点のカーボンフットプリント**、**バイオマテリアル調達**、**自然資本**、**持続可能な調達**における持続可能性のリーダーシップを示すためのガイダンス。
- **セクション 4：追加リソースとサポート** — 推奨される外部情報源、および当社への連絡方法や追加支援へのアクセス方法。



当社の持続可能性戦略

セクション 1 から開始し、セクション 2 を完了した後、セクション 3 ~ 4 を活用して取り組みの効果を高め、必要な支援を活用してください。



A misty, purple-tinted landscape with rolling hills and a small building on a hillside. The foreground is filled with dense, dark green vegetation, possibly a forest or a field of tall grasses. The background shows a range of hills under a hazy, purple sky. A small, white building with a dark roof is visible on a hillside in the distance.

セクション 1：概要

AstraZeneca との協働する上での基盤は、 第三者向け行動規範です

本文書は、正しい行動を実践するために必要と当社が考える事項と、当社と共に、当社のために、または当社に代わって業務を行うすべての第三者が従うべき行動規範をまとめたものです。法令遵守および誠実な行動という基本要件に加え、**本行動規範は、当社と同等の倫理基準を共有するパートナーとのみ協働するという基本方針の一環です。**

<https://www.astrazeneca.com/content/dam/az/PDF/Sustainability/Code-of-conduct-for-third-parties.pdf>



Contents

We do the right thing	4	Fair treatment	14
Working together	5	Wages, benefits and working hours	15
		Freedom of association	15
Ethics	6	Health and safety	16
Anti-bribery and anti-corruption	6	Worker protection	16
Anti-fraud	6	Process safety	16
Anti-tax evasion	7	Emergency preparedness and response	16
Trade controls and fair competition	7		
Product security	7	Environment	17
Animal research and welfare	8	Environmental authorisations and reporting	17
Conflicts of interest	8	Climate action	17
Patient safety and access to information	8	Waste and emissions to air, land and water	18
Data privacy	9	Resource use	18
Ethical and responsible data and AI	9		
Cyber security	10	Management systems and reporting	19
Confidentiality	10	Commitment and accountability	19
Product communication	10	Legal requirements	19
Sustainable sourcing and traceability	11	Managing your third parties	19
		Risk identification and management	19
Human and labour rights	12	Sustainability	20
Freely chosen employment, anti-slavery and anti-trafficking	12	Materiality assessment	20
Spotting the signs of modern slavery and forced labour	13	Standard setting	20
Child labour and young workers	13	Transparency in reporting	20
Inclusion and diversity	14	Communication, training and competency	20
Supplier inclusion and diversity	14	Continuous improvement	21
Non-discrimination	14	Identification and reporting of concerns	21



サプライヤーの持続可能性に関する契約上および法的要件

すべてのサプライヤーは、**人権**を含む各種事項に関する規定を盛り込んだ第三者向け行動規範を遵守する必要があります。
要件の最終的な一覧については、契約書をご参照ください。

SBTi ステータス — SBTi 検証に提出済みの短期目標

SBTi ポータル上でのコミットメント登録、およびコミットメントから 12 ヶ月以内の目標提出（検証用）。

理由：SBTi 目標は、サプライヤーの将来的な脱炭素化を示す、科学的根拠に基づく公開指標であるため。

AstraZeneca 割当排出量に関する脱炭素化計画 — 温室効果ガス排出量 50%削減

AstraZeneca の購買に関連する炭素排出量を 50 %削減する計画について合意してください。

理由：AstraZeneca の排出量の 98 %はスコープ 3 に由来しています。2045 年までにネットゼロを達成するためには、サプライヤーから調達する製品・サービスの脱炭素化が不可欠です。

EcoVadis 総合スコア — 総合スコア 45 超の有効なスコアカード

年次の EcoVadis 評価を実施し、提示された是正措置に基づき、毎年スコアの向上を目指してください。

理由：EcoVadis は、環境・倫理・労働権および人権・持続可能な調達の各分野におけるサプライヤーの持続可能性の成熟度を把握するのに役立つため。

インクルーシブな方針および実践 — EcoVadis を通じて共有

適用法に準拠し、組織およびサプライチェーンにおけるインクルージョン&ダイバーシティに関する方針を策定・維持し、その進捗を EcoVadis を通じて報告してください。

理由：インクルーシブなビジネス慣行および法的・契約上の要件遵守を支援するため。

排出量データ — スコープ 1・2 に加え、スコープ 3 カテゴリー 1～8

排出量データは EcoVadis の指標セクションを通じて提出し、年次で更新してください。また毎年、一部のサプライヤーに対し、CDP を通じた情報開示を無償で依頼しています。

理由：サプライヤーから提供される排出量データは、当社のスコープ 3 報告の精度向上につながるため。

特定のサプライヤーのみ対象：

EUDR（EU 森林破壊防止規則）コンプライアンス

EU 拠点に対して、アブラヤシ、牛、ココア、コーヒー、ゴム、大豆、木材、またはそれらの派生製品を供給するサプライヤーは、自社製品が森林破壊を伴わず、合法的に生産され、地理座標によりトレーサビリティが確保されていることを証明する必要があります。

理由：EU 法令に基づく要件であるため。

米国政府契約におけるサブコントラクトフローダウン要件

AstraZeneca の米国政府契約に関与するサプライヤーは、該当する米国政府のフローダウン条項および契約条件を受け入れる必要があります。

理由：米国連邦調達規則に基づく要件であるため。

持続可能な調達 — 天然原材料の供給は、第三者認証を含む特定の持続可能な調達要件を満たす必要がある

具体的な認証要件は 2026 年に通知予定であり、ガイダンスが追って提示されます。

理由：原材料による自然への影響を低減し、事業のレジリエンスを確保するため。

契約要件は、年間支出が 25 万ドルを超えるサプライヤーに適用されます。また、年間支出が 130 万ドルを超える一部のサプライヤーのみが CDP への開示に招待されます。

政府、HCO（医療機関）、学術機関、個人事業体、および協同組合など、特定の組織形態は、一部の要件の適用対象外となります。適格性に関するお問い合わせは、sustainable.procurement@astrazeneca.com までご連絡ください。



AstraZeneca の要件を満たすためのサプライヤーへの期待事項

当社の契約上および法的要件の遵守を支援し、継続的な取引関係の維持に寄与するものです

EcoVadis 炭素管理レベル – 上級*

炭素管理レベルの継続的な改善に取り組み、スコアカード向上のために特定されたすべてのアクション（すべての炭素関連指標の提供を含む）に対応すること。

理由：炭素成熟度の把握を可能にし、それに基づいた最適なエンゲージメントおよび支援を行うため。

EcoVadis の「労働権および人権」サブスコアを 45 以上とすること

サプライチェーンにおける人権の尊重・推進および適正な労働条件の促進。

理由：サプライチェーンにおける労働権および人権リスクへの適切な対応を示すため。

再生可能電力（RE）- 80 %を達成し、2030 年までに 100 %を目標とする

2030 年までに、グローバル企業全体で RE 80%を達成し、AstraZeneca 向け製造拠点では 100%の達成を目指す。サプライヤーは、Energinet および/または SMI の PPA プログラムを活用するか、独自のプログラムを推進すること。

理由：すべての企業にとって、脱炭素化を実現するための重要な手段であるため。

クリーンヒート – グローバルレベルで 20 %を達成し、2030 年までに 100 %の達成を目標とする

2030 年までに、グローバル企業全体でクリーンヒート比率 20%を達成し、AstraZeneca 向け製造拠点では 100 %の達成を目指す。サプライヤーは、AstraZeneca のクリーンヒートプログラムおよび/または SMI クリーンヒートプログラムを活用するか、独自のプログラムを推進すること。

理由：多くの企業にとって、脱炭素化を実現するための重要な手段であるため。

化石由来の燃料、溶剤、またはプラスチックを天然由来の原料へ切り替える提案に関しては、AstraZeneca のバイオマテリアル原則を遵守すること

理由：脱炭素化を目的としたバイオマテリアルへの切替によって、自然環境に意図しない影響を及ぼすことを防ぐため。

Worldfavor - プロファイルを有効な状態に維持し、割り当てられたすべての質問書に回答すること

本開示プラットフォーム上で最新のプロファイルを維持し、要請に応じて具体的な持続可能性関連の証拠を提供すること（当該証拠は他プラットフォームでは収集されません）。

理由：持続可能性およびサプライヤーエンゲージメント戦略の策定に資するデータを提供するため。



サプライヤーを支援するためのプログラム

各タイトルをクリックすると、プログラムの外部ページにアクセスできます



中小企業向け持続可能性促進プログラム

中小企業が持続可能性の基盤を構築し、自社の影響を評価し、EcoVadis・SBTi・CDP への対応を進めるとともに、AstraZeneca の期待事項に沿ったロードマップおよびアクションプランを策定できるよう支援する、年1回・4ヵ月間の集中プログラム。



Sustainable Markets Initiative

CEO 主導の連合体であり、民間セクターによる持続可能性推進の取り組みを結集するもので、グリーン電力や低炭素熱の導入を加速するプログラムなどを含みます。グリーン電力の電力購入契約およびグリーンヒートソリューションの推進を通じて、サプライヤーの化石燃料由来の熱・電力からの転換を支援し、ネットゼロ達成に向けた移行を後押しします。



Activate by Secaro (旧称: Manufacture 2030) [製造サプライヤー向け]

サプライヤーの施設単位での持続可能性のパフォーマンスを評価し、炭素・廃棄物・資源使用の削減に向けた具体的なアクションプランを提供するプラットフォーム。AstraZeneca はまた、製品のライフサイクル評価(LCA)に必要なデータを収集するため、サプライヤーの製造拠点からの情報収集に Activate を活用しています。



Responsible Health Initiative (RHI)

EcoVadis 主導の業界連合であり、主要な製薬・医療関連企業が協働して、グローバルサプライチェーン全体の持続可能性、倫理、環境影響の改善に取り組むものです。共有評価を活用することで、持続可能性のパフォーマンスの向上、リスクの低減、および業界全体の効率化を推進します。



Converge by My Green Lab [研究開発および製造サプライヤーのラボ向け]

My Green Lab 認証フレームワークを通じて、研究所における持続可能性の実務の標準化と改善を図るプログラムおよびツールキット。

ラボを有するサプライヤーに対し、ベストプラクティス(エネルギー、水、廃棄物、グリーン購買)の導入を促すことで、環境負荷を定量的に低減し、製薬業界の持続可能性要件との整合を支援します。



Pharmaceutical Supply Chain Initiative (PSCI)

倫理、労働、安全衛生、環境を含む責任あるサプライチェーン実務のための共通原則とツールを提供する製薬業界のイニシアチブ。監査に関する業界標準および能力構築のためのリソース(非会員も利用可能)を提供することで、パフォーマンスの向上、リスク低減、および AstraZeneca の持続可能性基準の達成を支援します。



Energize [全サプライヤーおよびティア2 サプライヤー向け再生可能電力プログラム]

教育、共同調達、市場形成支援を通じて、製薬・医療関連サプライヤーが再生可能電力へアクセスできるようにする企業横断型イニシアチブ。再生可能電力の調達を簡素化し、需要を集約することで、クリーン電力調達の障壁を低減し、スコープ排出量の削減または排除を実現します。



Sustainable Procurement Pledge (SPP)

持続可能性を購買判断およびサプライヤーエンゲージメントに組み込むことを掲げた、調達専門家によるグローバルな取り組み。従業員の能力開発を支援するとともに、環境および社会パフォーマンスの向上を通じて、企業がビジネスの獲得および維持を図るためのインセンティブを提供します。



Secaro: クリーンヒートプログラム

クリーンヒートプログラムは、Secaro と ERM による共同イニシアチブであり、AstraZeneca が創設スポンサーを務めています。熱の生成、供給、および最終利用効率に関する実践的かつ拠点別の改善機会を特定し、適切な場合には低炭素の熱ソリューションへの移行を促進します。本評価により、優先度の高い施策、想定される排出削減量、および導入に向けた実行経路を含む、カスタマイズされたビジネスケースおよびアクションプランが策定されます。



AstraZeneca の要件が貴社のビジネスにもたらす価値

1 AstraZeneca とサプライヤーの関係

AstraZeneca は、持続可能性に配慮したサプライヤーとの協働に取り組んでいます。

今後は、持続可能性の要件を満たすサプライヤーへの発注を一層優先していきます。

(サービス、商業条件、品質、契約要件など他の要件とあわせて)。

1

2 法規制への備え

すべての市場において、持続可能性関連規制は進展し、その範囲も拡大しています。

当社は、世界中の患者に医薬品を安定的に供給し続けられるよう、サプライチェーン構造およびデューデリジェンス体制を進化させていきます。

2

3 業界の期待への対応

当社のサプライヤー要件は多くの製薬企業と共通しており、PSCI や SMI といった業界ネットワークを通じた競争前段階での協働により策定される場合が多くあります

3

4 人材の確保と定着

従業員および求職者は、環境および社会に配慮した企業での就業をますます重視するようになっていきます。

AstraZeneca の要件に沿った持続可能性プログラムを公表・整備することは、採用活動の強化にもつながります。

4

5 リスクの低減

サプライチェーンのリスクは、事業継続性および企業の評判に対する重大な脅威となります。

投資家は、包括的な環境・社会ガバナンスの実践によって創出または保全される価値を認識しています。

また、企業が顧客要件と整合していない場合、「リスクにさらされる収益」も評価対象となります。

5



調達プロセスへの持続可能性対策の組み込み

「優先サプライヤー」 ステータスの取得要件

AstraZeneca の優先サプライヤーステータスを取得するには、少なくとも SBTi へのコミットメントが必須要件* となります。

優先サプライヤーは、調達プロセスにおいて優先的に扱われます。

RFX における持続可能性評価の 最低ウェイト：10%

RFX 調達において持続可能性評価の最低ウェイトを 10% とすることで、優れた持続可能性の実績や持続可能な製品・サービスの提供は評価スコアを直接押し上げ、AstraZeneca との取引の獲得および維持の可能性を高めます。

サプライヤー紹介

持続可能性に関するイノベーションの導入やリーダーシップの発揮を通じて AstraZeneca の目標達成に貢献するサプライヤーは、AstraZeneca のウェブサイトで公開される月次の **Supplier Sustainability Newsletter** に掲載される場合があります。



業界の期待への対応： SMI サプライヤー目標

Sustainable Markets Initiative

OPEN LETTER TO SUPPLIER PARTNERS ON CLIMATE AND NATURE ACTION FROM MEMBERS OF THE SUSTAINABLE MARKETS INITIATIVE (SMI) HEALTH SYSTEMS TASK FORCE

21 November 2025

Dear Supplier Partners,

Reducing carbon emissions across health systems requires partnership across the value chain. As Chief Procurement Officers (CPOs) from members of the SMI Health Systems Task Force, we ask for your support. We have a shared responsibility and opportunity to contribute to a healthier, more sustainable future by reducing emissions in line with the goals of the Paris Agreement. The healthcare sector contributes around 5% of global greenhouse gas emissions, of which [more than 50% stem from the supply chain](#), and we know that these emissions harm human health. As valued suppliers, you play an essential role in addressing these emissions and your environmental footprint to contribute to a more sustainable and resilient value chain.

In light of this, we have updated the joint, minimum sustainability targets for suppliers which our CEOs first issued in 2023. We ask that you align your operations with these revised targets and engage your own suppliers to do the same:

Updated joint, minimum Supplier Sustainability Targets

- Emissions**
 - Assess and disclose scope 1, 2, and 3 emissions¹; disclose product carbon footprints or life cycle assessments (LCAs) for your top 10 products² (ordered by annual GHG emissions impact) by 2028.
 - Publicly set third-party validated science-based targets³ (near-term and long-term) across Scopes 1, 2, and 3 by 2027.
- Electricity**
 - Source at least 80% renewable electricity by 2030⁴ and publish annual interim progress.
- Heat**
 - Reduce process heat emissions by at least 20% by 2030⁵.
- Resource Efficiency**

Set targets, a credible supporting plan, and demonstrated action in the following areas⁶:

 - Source lower carbon and circular input materials, including sustainable feedstocks for solvents and plastics.
 - Minimise resources by reducing material use; manage unavoidable waste by increasing recycling rates.
 - Reduce emissions from solvent use (e.g. via solvent reuse, solvent recycling).
- Nature & Water**
 - By 2028, assess dependencies, impacts, risks, and opportunities related to pressures on nature⁷ across the value chain and take visible actions in response to the assessment by 2030, including on sustainable and deforestation-free sourcing of key naturally derived commodities.
 - By 2030, set targets and demonstrate action on water. For high water stress or risk areas, set absolute water reduction targets and adopt water stewardship practices⁸. For all areas, measure pollutant release and improve water efficiency.
- Suppliers**
 - Integrate the targets above into contracting for your suppliers.

Sustainable Markets Initiative

To support you and your teams in taking meaningful action on the targets outlined above, we have launched several initiatives as follows:

- Renewable Power and Heat Procurement Programmes.** We have launched joint procurement programmes for renewable electricity in [China](#) and [India](#)⁹ which can be joined. We have also identified clean heat solutions to reduce emissions.
- Sustainable Plastics Sourcing.** We have committed to prioritise low-emission plastics. If you are a plastics supplier, partner with us as we work to substitute fossil-based plastics with lower emissions alternatives within our portfolios, such as certified bio-based plastics. We ask that you provide low-impact options for polyolefins¹⁰ and other plastic materials wherever possible to support our Scope 3 decarbonisation targets.
- Emissions Measurement Tools:**
 - We will be launching a life cycle assessment (LCA) standard later this year. We encourage you to assess your product level impact using this standard and will share relevant trainings to support you here
 - If you are a clinical trials supplier, we encourage you to use our [clinical trial carbon calculator](#) to measure emissions from clinical trials and use the insights to enhance your decarbonisation strategies.
- Dedicated Support Webinars.** Join our webinar series to gain actionable insights on decarbonisation strategies. Register [here](#) to receive updates and invites for upcoming webinars.

As a group of Chief Procurement Officers of pharmaceutical and healthcare companies, we have seen encouraging progress among our top suppliers over the past three years. For example, we have seen the number of suppliers adhering to the [original supplier targets we set double](#)¹¹, and many suppliers have joined the renewable power procurement programmes we have established.

Sustaining momentum remains a top priority which is why our Chief Procurement Officer Forum meets quarterly to review progress and next steps to decarbonise the value chain.

We are excited to continue collaborating on this journey with you. By working together, within the bounds of competition law, we can advance to net zero health systems and build a healthier, more sustainable future.

Sincerely,

 Natalia Vidmar, AstraZeneca	 Lisa Martin, GSK	 Christoph Buerki, Novartis	 Erich Battanta, Novartis
 Anja Jørgensen, Novo Nordisk	 Marielle Beyer, Roche	 Insub Song, Samsung Biologics	 Jean-Yves Rotté-Geoffroy, Sanofi
 Katiana Iavarone, UCB			

¹ Using methods aligned with the Greenhouse Gas Protocol.
² For more information on how to calculate product carbon footprints, please refer to our guidance on [Product Carbon Footprints](#) (2024) and [GHG Reporting](#) (2024).
³ For more information on how to set science-based targets, please refer to our [Science-Based Targets](#) (2024) and [SBT Guidance](#) (2024).
⁴ For more information on how to source renewable electricity, please refer to our [Renewable Electricity](#) (2024) and [Renewable Energy](#) (2024).
⁵ For more information on how to reduce process heat emissions, please refer to our [Process Heat](#) (2024) and [Energy Efficiency](#) (2024).
⁶ For more information on how to set resource efficiency targets, please refer to our [Resource Efficiency](#) (2024) and [Circular Economy](#) (2024).
⁷ For more information on how to assess nature dependencies, impacts, risks, and opportunities, please refer to our [Nature](#) (2024) and [Nature-related Risks](#) (2024).
⁸ For more information on how to set water reduction targets, please refer to our [Water](#) (2024) and [Water Stewardship](#) (2024).
⁹ For more information on how to source renewable electricity in China and India, please refer to our [Renewable Electricity](#) (2024) and [Renewable Energy](#) (2024).
¹⁰ For more information on how to source low-impact plastics, please refer to our [Sustainable Plastics](#) (2024) and [Plastics](#) (2024).
¹¹ For more information on how to track progress on our supplier targets, please refer to our [Supplier Targets](#) (2024) and [Supplier Performance](#) (2024).

Sustainable Markets Initiative (SMI) の Health Systems Task Force が最近発表した サプライヤーパートナー宛の公開書簡は、サプライヤーの持続可能性（排出量、再生可能エネルギー、資源効率、自然および水、ならびに基準の展開）に関して、製薬業界全体で広範な足並みの一致が見られることを示しています。

AstraZeneca の要件にはさらに踏み込んだ内容も含まれますが、その方向性は同業他社と整合しています。当社の基準を満たすことで、コンプライアンス対応の効率化、重複対応の削減、および他の製薬企業からの同様の要件への対応が容易となり、業界全体における競争力の向上につながります



ネットゼロへのロードマップ：AstraZeneca のプログラムとの整合

1. 関与の促進

- 経営層の関与を確保する
- 従業員、主要顧客およびサプライヤーからの意見を収集する
- 社内ワーキンググループを設置し、賛同を確保するための「推進担当者（チャンピオン）」を特定する

2. コミットメント

- 対外的にコミットメントを表明した上で、SBTi 目標を設定する
- 目標を事業戦略に組み込む
- 社内で周知する

3. 測定

- 温室効果ガス排出量の評価を実施する
- 算定結果について第三者検証を受ける

4. 削減

- 排出削減計画を策定する
- 脱炭素施策を実行する
- KPI をモニタリングするためのダッシュボードを構築する

5. 情報発信

- 情報開示を通じて進捗を公表する
- 年次の気候影響報告書または ESG（環境・社会・ガバナンス）報告書を作成する

6. 緩和

- 残存する不可避な排出量については、信頼性の高い高品質なカーボンクレジットを用いてオフセットする



サプライヤーにより検討中





セクション2：
最低要件達成に向けた
ステップガイド

中小企業の支援

- 持続可能性要件への対応は中小企業にとって負担に感じられる場合がありますが、成功と成長を支える実践的かつ適切な規模のアプローチが用意されています
- 多くの分野において、対象となる中小企業（SME）向けに簡素化・合理化された選択肢が提供されています
- 中小企業の皆さまは、これらを積極的にご活用ください
- 大企業の場合は、自社のサプライチェーンに属する中小企業がこれらの選択肢を認識し活用できるよう配慮してください
- **SME Climate Hub**：中小企業のネットゼロへの取り組みを支援するために特化した[リソースおよび教育資料](#)を提供しています
- **SBTi**：[SME 向け簡素化ルート](#)では、スコープ 1 および 2 に限定した目標の簡易設定、または維持目標の設定が可能であり、費用も大幅に低減されています
- **EcoVadis**：「[小規模](#)」および「[零](#)[細](#)」といった組織区分では、料金が大幅に低く、質問書も簡素化されています

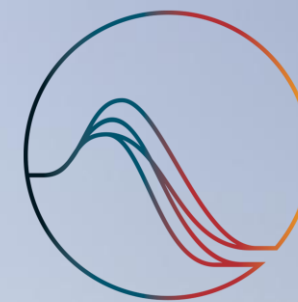
AstraZeneca の中小企業向け持続可能性促進プログラム：

中小企業が持続可能性の基盤を構築し、自社の影響を評価し、AstraZeneca の持続可能性要件への対応を進めるとともに、期待に沿ったロードマップおよびアクションプランを策定できるよう支援する 4 ヶ月間の集中プログラムです。



科学に基づく目標設定イニシアチブ (SBTi) は、企業および金融機関が気候危機への対応において自らの役割を果たせるよう支援する、企業主導の気候アクション団体です。

同イニシアチブは、企業が温室効果ガス (GHG) 排出削減目標を設定できるよう、基準、ツール、およびガイダンスを提供しています。これらの目標は、地球温暖化を壊滅的な水準に至る前に抑制し、遅くとも **2050** 年までにネットゼロを達成するために必要な水準と整合するものです。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



SBTi プロセス

AstraZeneca の SBTi 要件に関する詳細は、[こちらの FAQ](#) をご参照ください。

1. 登録 2. コミットメント 3. 目標策定 4. 提出 5. 情報発信 6. 開示

すべての企業は、まず Validation Portal を通じて SBTi Services に登録する必要があります。

[こちら](#)から個人アカウントを作成し、その後の手順に従って企業アカウントを作成してください。

必要な情報を含む登録プロセスの詳細は、[こちら](#)をご確認ください。

SBTi の設定に関する正式なコミットメントは、権限を有する企業の責任者による簡易な同意手続きを通じて、Validation Portal 上で行う必要があります²。

その後、設定した目標は SBTi [Target Dashboard](#) 上で公開されます。

コミットメント後は、SBTi 基準に沿った目標設定プロセスを開始できます。以下の2つの選択肢があります：

- [短期目標](#)
- [ネットゼロ目標](#)

AstraZeneca は、少なくとも短期目標の設定をサプライヤーに求めています。

中小企業 (SME) には、簡素化された目標設定の[専用ルート](#)が用意されています。

[Target Submission Form](#) をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、関連書類とともに Validation Portal から提出してください。

技術的審査の後、SBTi による目標の検証が実施されます。追加情報の提供を求めるメールには必ず対応し、所定の費用を支払ってください。

費用の詳細については、[こちら](#)をご参照ください。

目標承認後 1 ヶ月で、SBTi およびパートナーのウェブサイト上の「[Companies Taking Action](#)」ページに掲載されます。

新たな目標をステークホルダーへ通知するためのガイダンスを含むウェルカムパックが提供されます。

承認後は、貴社の排出量を毎年開示し、目標達成に向けた進捗をモニタリングする必要があります。

SBTi リソースライブラリは[こちら](#)からご利用いただけます。

² 簡素化された SME 向け目標設定ルートを利用する場合、本手順は不要です。



EcoVadis は、ESG（環境・社会・ガバナンス）の評価を行う企業です。2007年の設立以来、EcoVadis は、企業の持続可能性評価において世界最大かつ最も信頼されるプロバイダーへと成長し、10万社以上の評価対象企業からなるグローバルネットワークを構築しています。本評価は、業種、所在国、および企業規模に応じてカスタマイズされます。持続可能性スコアカードでは、4つの主要テーマに分類された21の指標に基づき、パフォーマンスが可視化されます。

- 環境（カーボンスコアカードを含む）
- 労働権および人権
- 倫理
- 持続可能な調達

The EcoVadis logo is displayed in a dark grey, lowercase sans-serif font. The letter 'v' is uniquely styled with a green leaf-like shape integrated into its upper right portion. The logo is positioned in the upper right area of the image, set against a background of a sunset scene with a family.

ecovadis



EcoVadis プロセス

AstraZeneca の EcoVadis 要件に関する詳細は、[こちらの FAQ](#) をご参照ください。

1. 登録

[こちら](#)をクリックするか、AstraZeneca からの招待メール内のリンクに従って、EcoVadis プラットフォーム*に登録し、貴社に関する基本情報をご入力ください。その後、これらの情報は EcoVadis のデータ管理チームによって確認され、質問書およびサブスクリプション内容のカスタマイズに使用されます。料金を含むサブスクリプションの詳細については、[こちら](#)をご参照ください。

*本リンクから登録すると、スコアカードは **Responsible Health Initiative (RHI)** プールに追加されます。この仕組みにより、取引先は1つの有効な評価結果を複数の RHI 製薬企業メンバーと共有でき、調査対応の負担を大幅に軽減できます。スコアカードを RHI プールと共有したくない場合は、別の招待リンクの発行をご依頼ください。

**EcoVadis のカーボンセクションの詳細については、後続のスライドをご参照ください。

2. 質問書

登録内容の受領および処理後、ユーザー名およびパスワード設定用リンクを含む通知が送信されます。プラットフォームにアクセス後、サブスクリプションプランを選択し、貴社の持続可能性質問書への回答および補足資料の提出を開始できます。質問書は 30 営業日以内に完了する必要があります。すべてのセクションを漏れなく記入し、特に CDP への招待を受けていない場合には、炭素関連データを含むすべての指標を必ずご提供ください**。

3. 専門分析

質問書提出後、EcoVadis の持続可能性アナリストが公開情報源から貴社に関するサステナビリティ関連情報を収集し、回答内容および補足資料の評価を行います。結果の公開予定日は EcoVadis 評価プラットフォーム上で確認できますが、通常は 6 ~ 8 週間程度で結果が通知されます。

4. 結果

EcoVadis による専門分析が完了すると、スコアカードへのリンクを含むメール通知が送付されます。本スコアカードは AstraZeneca にも共有されます。本スコアカードは、要請のあった他の組織とも共有可能です。また、AstraZeneca からの招待を経ずに本プロセスを開始した場合は、当社への共有が必須となります。EcoVadis プラットフォームでは、評価で特定された改善領域に基づき、是正措置が提示されます。

5. 再評価

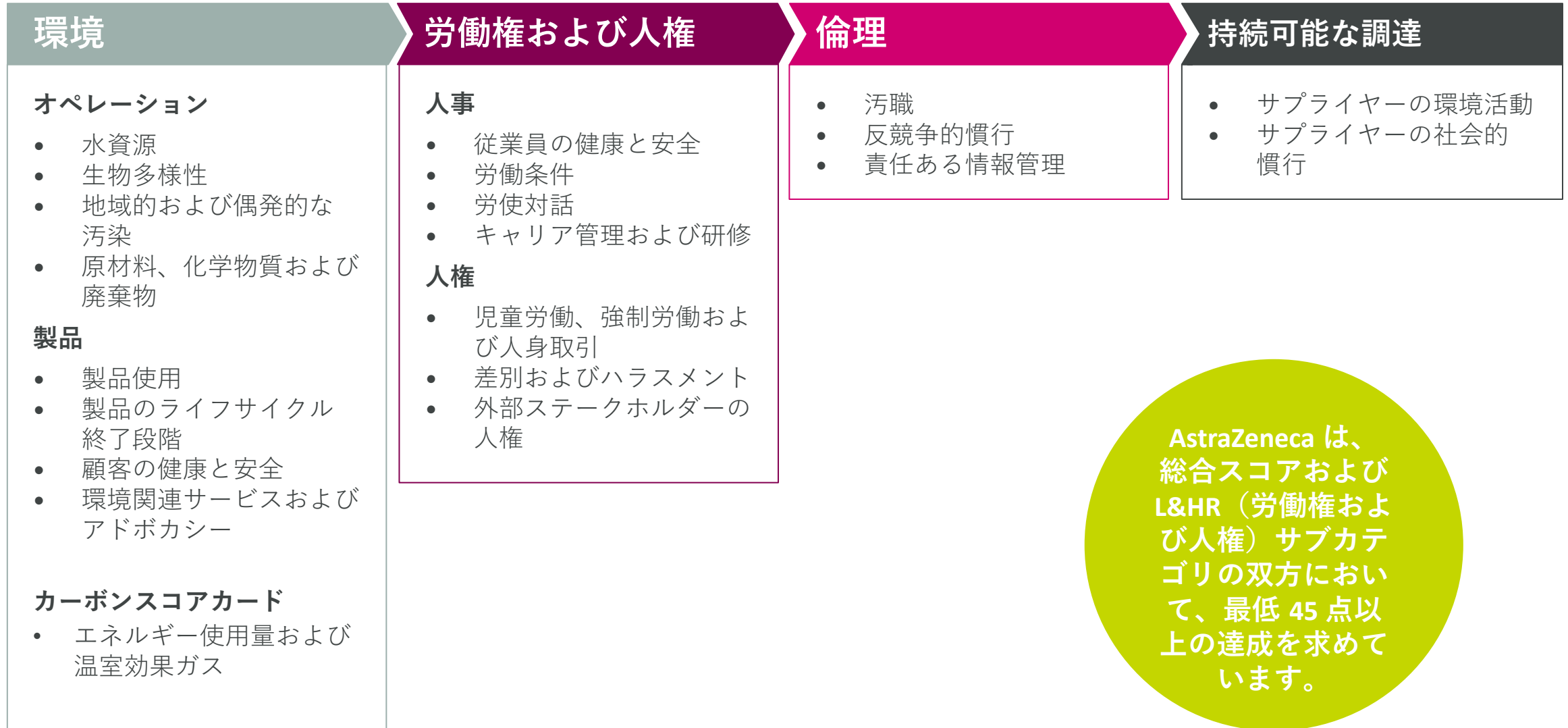
スコアカードの有効期間は 12 ヶ月であり、年次での更新が推奨されます。これにより、年間を通じた是正措置の実施による進捗が示されます。スコアカードの有効期限切れを回避するため、少なくとも有効期限の 3 ヶ月前までに再評価を開始してください。

EcoVadis ヘルプセンターは[こちら](#)からご利用いただけます。



EcoVadis のスコアリングカテゴリー

AstraZeneca の EcoVadis 要件に関する詳細は、[こちらの FAQ](#) をご参照ください。



AstraZeneca は、総合スコアおよび L&HR（労働権および人権）サブカテゴリーの双方において、最低 45 点以上の達成を求めています。



EcoVadis カーボンスコアカード

EcoVadis の標準評価には、炭素管理に関する質問書*が含まれており、その結果として炭素管理レベルが付与されます。AstraZeneca は、サプライヤーが少なくとも**上級**レベルに到達するまでの取り組みを期待していますが、当社の **SBTi** 要件を満たしている場合、すでに**リーダー**レベルの達成に向けた十分な基盤が整っていると考えられます。エネルギー、廃棄物、水資源などの関連指標の提供を含め、EcoVadis 評価における炭素関連指標セクションを漏れなくご記入ください。



Questionnaire Requirements

- 11 questions for large companies, incl. 8 multiple-choice
- 7 questions for SMEs, incl. 4 multiple-choice

Performance level	Insufficient	Beginner	Intermediate	Advanced	Leader
Prerequisite	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> • Public Reporting or CDP Report • 3rd party verification 	<ul style="list-style-type: none"> • Scope 1+2 Targets • SBTi target or commitment • Public reporting / CDP Report • 3rd party verification
Results	Company with minimal or no GHG management system	Company with some elements of a GHG management system and/or reporting practice	Company with core elements of a GHG management system	Company with comprehensive GHG management system, public reporting & 3rd party verification	Company with best in class GHG management system and formal GHG emissions reduction target.
Opportunities	Focus on improvement areas to set up foundation for a GHG management system	Focus on setting the core elements of a GHG management system. Including targets for scope 1, 2 emissions & public reporting	Focus on setting target & consider 3rd party verification of disclosed data	Focus on target setting practices. If you haven't done so, consider setting targets across all scopes or align your targets with science based target requirements	Engage and collaborate with a trading partner

*従業員 25 名未満の極小規模組織には適用されません。



CDP は、投資家、企業、都市、国、地域を対象としたグローバルな環境情報開示システムを運営する非営利団体です。**CDP** は、財務報告に準じた標準化された環境報告モデルの構築を目的として設立されました。

招待されたサプライヤーは、毎年**CDP** の気候変動質問書への回答が求められます。これにより、環境リスクの管理および低減に向けた機会の特定が可能となります



CDP プロセス

AstraZeneca の CDP 要件に関する詳細は、[こちらの FAQ](#) をご参照ください。

1. 有効化

対象となるサプライヤーには、毎年6月初旬頃に AstraZeneca より CDP 登録の招待が送付されます。参加を有効化するには、CDP アカウントの新規登録または既存アカウントへのログインが必要です。その後、CDP から提出プロセスへの参加招待が送付され、質問書の閲覧が可能となります。AstraZeneca から CDP への開示を依頼されたサプライヤーは、費用を負担する必要はありません。

質問書は内容が広範にわたるため、AstraZeneca からの招待を受領後、速やかに対応を開始することを推奨します。サプライヤーからご提供いただく主なデータには、排出量およびその検証情報、ならびにエネルギー関連の活動データが含まれます。

2. 報告

すべての企業に、以下の情報の提供が求められます。

- スコープ 1 およびスコープ 2 の排出量データ。
- スコープ 3 排出量（カテゴリ 1～8：上流）すべてのカテゴリについて、データを提供するか、該当なしとして明示する必要があります。

外部の第三者によるデータ検証が推奨されます。

中小企業（SME）は、設問数を簡略化した専用の質問書に回答することが可能です。

毎年 9 月から 10 月頃までにデータの入力および提出を完了する必要があります。具体的な提出期限は、CDP より別途明確に通知されます。

3. 結果

提出内容は CDP によって評価され、環境パフォーマンスおよび質問書回答の網羅性を総合的に反映した CDP スコアが付与されます。

これらの結果は AstraZeneca およびその他の要請元にも共有され、社内において提出内容の品質評価および炭素管理に関する事業成熟度の指標として活用されます。

CDP ヘルプセンターは[こちら](#)からご利用いただけます。



2025 年における AstraZeneca のスコープ 3 排出量の 66%は、購入した製品・サービス、資本財、ならびに上流の輸送・流通*に由来しており、すなわちサプライチェーンからの排出です。

AstraZeneca の野心的な温室効果ガス排出削減目標を達成するためには、サプライヤーにおける温室効果ガス排出量の大幅な削減が不可欠です。

サプライヤーが当社の目標を理解し、排出量を可能な限り低減するという当社のビジョンに沿って取り組むことが極めて重要です。

したがって、すべてのサプライヤーは、2024 年を基準年として 2030 年末までに AstraZeneca 向けに配分される排出量を 50 %削減することを目的とした脱炭素化計画を策定する必要があります。

AstraZeneca の 割り当て排出量 に関する 脱炭素化計画



AstraZeneca の割り当て排出量に関する脱炭素化計画 - プロセス

AstraZeneca の温室効果ガス算定方法の詳細については、[こちら](#)をご参照ください。

1. AstraZeneca の割り当て可能な排出量のベースラインについて合意する

2. 排出削減レバーを特定する

3. 排出削減量を定量化し、計画を策定する

4. AstraZeneca と計画内容に合意し、正式化する

5. AstraZeneca に計画の進捗状況を報告する

2024 年における、AstraZeneca 向けのサービス/資材提供に関連する排出量の割合を特定してください。

サービス/製品に関する活動を分類してください。まずサービス/製品を列挙し、それぞれについて主要な活動を洗い出します。

各項目の排出量を推計します。利用可能な最適の手法を適用

1. 製品カーボンフットプリント (PCF) *
2. 活動量ベース (AZ 向け数量および単位当たり排出係数)
3. 収益ベース (AZ 向け売上比率に基づくサプライヤーの総排出量からの割り当て)

排出量のベースラインには、AZ 向けに提供するサービス/資材に割り当て可能なスコープ 1、スコープ 2、および上流のスコープ 3 (カテゴリ 1 ~ 8) の排出量を含める必要があります。

温室効果ガス (GHG) プロトコルに準拠したベースラインのホットスポット分析から着手してください。

主要な排出源を特定し、排出量の 70 ~ 80% を占める領域に重点的に取り組みます。

想定される脱炭素化レバー：

- エネルギー - 再生可能電力、熱の電化、燃料転換、エネルギー効率向上、エネルギー管理
- オペレーション - プロセス最適化、廃熱回収、廃棄物および水使用量の削減
- サプライチェーン - 低炭素材料、循環性、物流最適化、低炭素物流、サプライヤーエンゲージメント
- 製品・設計：再利用・回収を前提とした設計、バイオマテリアル、再生材の活用

利用可能な最適の見積もり手法を用いて、排出削減ポテンシャルを定量化します。

- 各レバーの絶対削減量 (t-CO₂e)
- 今後 5 年間における各レバーの年次削減量 (0 ~ 2 年での早期効果を含む)
- 2030 年までにベースライン比 50% 削減

高い削減効果、経済合理性、技術的実現可能性、戦略との整合性を備えたレバーを優先してください。

AstraZeneca ではカーボンオフセットは考慮されません。排出量の削減を最優先としてください。

計画策定の検討段階から AstraZeneca を参画させ、事業との整合性を確保してください。

Worldfavor を通じて計画を提出することで、AstraZeneca との合意を正式化します (招待が送付されます)。

受入可能な計画の簡易チェックリスト：

- アクションが信頼性があり、具体的かつ測定可能で、AstraZeneca に関連していること
- 年次ベースで排出量削減につながる
- 境界および削減意図が明確になるよう、十分な詳細が記載されていること
- 計画期間が 5 年間であること
- 合意されたベースラインから最低 30% 削減 (目標：50% 削減) を達成すること

各ビジネスレビュー会議の前に、Worldfavor を通じて計画の進捗を定期的に見直し、更新してください。

該当する場合には、以下を通じてアクションプランの改善を図ってください。

- 排出量ホットスポットの理解を深化させる (例：支出ベースの手法から、活動量ベースや PCF への移行)
- 新たに実行可能となった削減レバーの特定

排出量上位のサプライヤーは、脱炭素化計画の進捗について四半期ごとの報告が求められます。



インクルージョン&ダイバーシティ（I&D）は、AstraZenecaの成功の基盤です。イノベーションには、従来の発想に挑戦できる多様な人材およびパートナーから生まれる画期的なアイデアが不可欠であると当社は考えています。サプライヤーのダイバーシティは、小規模企業および多様なオーナーシップを有する企業に対して、ビジネス機会への公平なアクセスを確保するものです。

当社は、価値観を共有し、職場およびサプライチェーンにおいて、確固たる方針、デューデリジェンス、ならびに測定可能な取り組みを通じて人権およびI&Dへのコミットメントを示すサプライヤーと協働します。



労働権および人権/インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)

人権および労働権

I&D

当社の第三者向け行動規範には、人権および労働に関するサプライヤーへの要求事項が定められています：

- **方針および基準**：国際基準に整合した人権方針、差別の禁止、安全な労働環境、公正な賃金および労働時間、結社の自由。
- **現代奴隷制/児童労働の禁止**：強制労働、債務労働、人身取引、児童労働の禁止、採用手数料の不徴収。
- **デューディリジェンス**：事業活動およびサプライチェーン全体にわたりリスクを特定・防止・軽減・是正し、要件を展開すること。
- **労働者の声**：機密性を確保した苦情申立て窓口の設置、報復の禁止。
- **ガバナンスおよび研修**：経営層の説明責任、役割に応じた研修。
- **透明性**：現代奴隷制に関する実際の事案または疑いがある場合は AstraZeneca へ通知し、要請に応じて情報を提供すること。

要件を満たすためのステップ：

1. 方針およびガバナンスを確立し、サプライチェーンの可視化（マッピング）を進め、リスクベースの人権評価を実施します。
2. 契約条項および監査権を組み込み、パフォーマンスを監視し、サプライチェーンにおける潜在的な人権への負の影響を軽減します。
3. 利用可能な苦情処理メカニズムを整備し、懸念事項を AstraZeneca に報告（エスカレーション）し、継続的に改善します。

1. AstraZeneca の持続可能性要件の一環として、EcoVadis プラットフォームを通じて貴社の I&D に関する方針および実務を共有いただきます。当該方針の策定に関する詳細は、EcoVadis のリソースをご参照ください。

2. サプライヤーインクルージョンプログラムへのコミットメント、および該当する場合にはサプライチェーン内の小規模な下請企業に対する公平な調達機会の提供を期待しています。AstraZeneca から要請があった場合には、小規模企業に対するティア 2 支出（間接支出）の情報提供を求めます。詳細は契約条項をご参照ください。



当社は、創薬から患者への医薬品提供に至るまで、バリューチェーン全体において自然由来の原材料に依存しています。自然由来の原材料の調達には、人や環境に悪影響を及ぼすリスクを伴う可能性があります。

受粉、水の浄化、気候調整、土壌の健全性といった適切に機能する生態系サービスは、患者にとって健全な地球環境を維持し、安定供給を通じた事業レジリエンスを確保するうえで不可欠です。

自然資源からの調達にあたっては、持続可能な方法を採用し、影響の低減に努める必要があります。



2030 年に向けた持続可能な調達に関する取り組み

2025 年に基盤を構築

1. 主要原材料に関する持続可能な調達の方針および計画を確立しました。
2. EUDR の対象となるサプライヤーとの連携体制を整備し、事業体制を構築しました。
3. PSCI を通じて、乳糖およびパーム油に関する製薬業界と統合した持続可能な調達戦略を構築しました。
4. 燃料、プラスチック、溶剤の代替に使用されるすべてのバイオマテリアルについて、持続可能な調達を確保するための社内ガイドラインを策定しました。

2030 年まで実行・推進

1. 二次・三次包装に使用される木材、セルロース、乳糖、アルミニウム、タルク、ヒマシ油、パーム油、カルナウバワックス、砂糖などの主要原材料について、サプライチェーン認証に関する契約要件を周知しています。
2. 主要原材料サプライヤーに対し、社会的・環境的側面に関するサプライチェーンデューデリジェンス体制の構築を促進し、持続可能な調達源であることを AstraZeneca に保証していただくことを推奨しています（リスク特定、モニタリング、是正、継続的改善を含む）。
3. 主要な天然由来原材料に関する要件を、製薬業界の他社と統合しています。
4. すべてのバイオマテリアルの調達および切替は、AstraZeneca の新たなガイドラインに準拠します。





セクション 3：最低要件
を超えて — 持続可能性
におけるリーダーシップ



人権

背景

当社は、バリューチェーン全体において倫理的な事業慣行と公正な人材の取り扱いを実践することで、信頼を構築します。人権リスクはサプライチェーンのあらゆる階層で発生し得るものであり、多くの場合、採用慣行、脆弱な労働者層、あるいはリスクの高い国・業種での事業活動に関連しています。

サプライヤーには、AstraZenecaの[第三者向け行動規範](#)に定める人権原則およびガイダンスを遵守し、安全で公正かつインクルーシブな労働環境を提供することにより、国際的に認められた人権および労働権を尊重することを求めます。

当社が防止を重視する主な人権リスクは以下のとおりです：

- 強制労働、債務労働、人身取引を含む現代奴隷制
- 児童労働
- 差別、ハラスメントおよび暴力
- 安全でない、または不衛生な労働環境
- 不公正な賃金、過重労働時間、結社の自由の制限

サプライヤーのベストプラクティス

サプライヤーは、EcoVadisの労働・人権サブスコア（45以上）を指標とし、事業活動およびサプライチェーン全体における人権への負の影響リスクを特定・防止・軽減し、同リスクに対応するための、実践的かつリスクベースのデューデリジェンスプロセスを整備する必要があります。サプライヤーに求める最低限のベストプラクティスは以下のとおりです：

- 人権および労働権の尊重
- 現代奴隷制の禁止（強制労働、債務労働、人身取引を含む）
- 児童労働の禁止
- 公正でインクルーシブかつ尊重に基づく職場（差別・いじめ・ハラスメントの禁止）
- インクルーシブなサプライチェーン
- 適正な賃金、法令に準拠した労働時間、安全な労働環境
- 労働者の声の尊重および発言の機会（法令に基づく結社の自由、苦情申立て窓口、報復の禁止）

追加リソース

AstraZeneca

- [AstraZeneca 第三者向け行動規範](#)（サプライヤー行動規範）
- [AstraZeneca 人権に関する声明](#)
- [AstraZeneca 現代奴隷制に関する声明](#)

外部フレームワークおよびガイダンス

- [国連ビジネスと人権に関する指導原則（UNGP）](#)：
- [国際労働機関（ILO）の中核的労働基準](#)
- [OECD ガイドライン](#)
- [Ethical Trading Initiative（ETI）ベースコード](#)
- [労働・人権に関する EcoVadis リソース](#)
- [PSCI 原則](#)

AstraZeneca のアプローチ

AstraZeneca は、ポリシーおよび基準の強化、リスクと優先事項の特定、パフォーマンスの測定、影響の評価という3つの領域における取り組みを通じて、サプライチェーン全体の人権課題に対し、体系的かつ多層的なアプローチで対応しています。

ポリシーおよび基準：当社の人権基準は、[UNGP](#)、[ILO](#) および [OECD ガイドライン](#)の原則に整合しており、人権関連法規（現代奴隷制関連法および EU CSRD）への準拠を支援するとともに、第三者向け行動規範、デューデリジェンスプロセス、契約条項、ならびに RfX プロセスを通じて強化されています。

リスクの特定と対応：当社は、サードパーティリスク管理（3PRM）システムを活用し、特に高リスク国および高リスクセクターに重点を置いて、サプライヤーの人権リスクおよびリスクシグナルを把握しています。また、当社は継続的に EcoVadis を通じてサプライヤーの人権パフォーマンスを評価しています。労働権および人権は総合スコアの 25 % を占めています。スコアが 45 未満のサプライヤーは、是正措置の優先対象とされます。

パフォーマンスの測定および影響の評価：当社の 2026 年に向けた重点目標：サプライヤーエンゲージメントおよび是正措置、サプライヤーおよび調達チーム向けトレーニングを通じた能力向上、高リスクカテゴリーに対する特別プロジェクト。進捗は、年次の持続可能性影響レポートおよび現代奴隷制ステートメントにおいて報告





再生可能電力およびクリーンヒート

背景

再生可能電力およびクリーンヒートは、脱炭素戦略の中核を成す要素であり、特に製薬製造のようなエネルギー集約型産業において重要で、

一般に、エネルギー使用は温室効果ガス（GHG）インベントリにおけるスコープ1およびスコープ2排出量の中で最大の割合を占めています。

- 電力使用 → スコープ2排出量
- 加熱・蒸気用途のオンサイト燃料燃焼 → スコープ1排出量

これら2つの領域の脱炭素化は、企業が事業活動に伴う排出量を削減する上で、最も迅速かつ制御可能なレバーとなる場合が多いです。

再生可能電力およびクリーンヒートは単独の取り組みではなく、より広範なエネルギー効率および最適化戦略の一部として位置付けられます。

AstraZenecaのアプローチ

AstraZenecaは、再生可能電力の調達、オンサイト発電、エネルギー効率の改善、バイオメタンへの燃料転換を組み合わせることで、グローバルな事業全体において電力および熱の脱炭素化を推進し、電力・熱を含む再生可能エネルギー100%の達成を目指します

AstraZenecaの大規模拠点では、熱電併給（CHP）システムの改修や建物のアップグレードを含む効率重視の設備投資を実施し、熱および電力需要の削減を通じて排出量を低減しています。

電力およびエネルギーの転換

- AstraZenecaは、複数国におけるオンサイト太陽光発電設備、長期電力購入契約（PPA）（例：スウェーデンでの風力発電に関する10年契約）、および再生可能エネルギー証書（REC）を組み合わせ活用し、グローバル事業全体で再生可能電力100%を達成しました。

クリーンヒートおよびバイオメタンの導入

- 熱の脱炭素化における重要な要素は、電気ヒーターやヒートポンプ等の導入に向けたインフラ整備による熱の電化です。
- クリーンヒートへの転換の一環として、AstraZenecaは主要拠点において化石ガスから再生可能ガス（バイオメタン）への移行を進めています。
- 英国では、Future Biogasとの15年にわたるパートナーシップにより、国内初の無補助バイオメタンプラントが稼働し、研究開発および製造拠点にクリーンヒートを供給しています。年間約100GWh（同社の世界全体のガス使用量の約20%）のバイオメタンを生産し、大幅なCO₂排出削減を実現しています。
- 中国では、無錫拠点において都市廃棄物由来のバイオメタンプロジェクトからバイオメタン由来の蒸気を調達し、スコープ1および2排出量を削減しています。
- 米国では、Vanguard Renewablesとの協業により、各拠点への再生可能天然ガス（バイオメタン）の供給を実現しています
- AstraZenecaの希少疾病事業部門であるAlexionは、アイルランドにおいて15年間のバイオメタン契約を締結し、同国の拠点における熱用途を100%再生可能バイオメタンへ移行しています。

サプライヤーのベストプラクティス

一般的なオペレーションにおける脱炭素化の進め方は、以下のとおりです：

- エネルギー効率および最適化
- 電力会社との契約における再生可能エネルギー証書（REC）や電力購入契約（PPA）を通じた、再生可能電力100%への移行
- 低温域の需要に対する熱の電化
- 残余需要に対する先進燃料（バイオガス、バイオマス、水素）

この流れにおいて：

- 再生可能電力は迅速かつ拡張性の高いレバーです。
- クリーンヒートはスコープ1の大幅削減の鍵です。
- エネルギー効率は両者のコストおよび実現可能性を左右します。

これは脱炭素化の基本原則に基づきます：

回避 → 削減 → 代替

追加リソース

[AstraZenecaの再生可能エネルギーに関するアプローチ](#)

[Energize](#) Schneider Electricと連携した製薬プログラムを通じ、RECおよびPPAに関する教育および市場アクセスを提供

[RE100](#) ゼロカーボン電力への移行を加速

[EV100](#) 2030年までに輸送の電動化を推進

[クリーンヒートプログラム](#) Secaroと連携し、製薬サプライヤーの産業用熱の脱炭素化を支援

[Renewable Thermal Collaborative \(RTC\)](#)

再生可能な加熱・冷却技術の拡大を通じて、熱エネルギー利用の脱炭素化を推進するグローバル連合。

[RTC電化アクションプラン](#) 産業用熱の電化に向けたロードマップ（ヒートポンプや電気ボイラーなどの技術経路および市場ソリューションを提示）。

[RTCプロセス熱電化リソース](#)：熱電化のソリューションおよびツールに特化

[RTCヒートポンプ意思決定支援ツール](#)

[RTC産業顧客向け電力エンゲージメントプレイブック](#)

[企業向け再生可能電力ガイド](#) - ClimatePartner

[IEECPリソース](#) - Institute for European Energy and Climate Policyによるプロジェクトツール、ケーススタディ、出版物への直接アクセス





製品および拠点レベルのカーボンフットプリント

背景

企業が科学的根拠に基づくネットゼロ目標の達成に向けた取り組みを進める中で、炭素管理は企業全体の集計値から、製品レベルおよび事業拠点レベルでのより詳細な測定へと移行しています。

複雑なグローバルサプライチェーン全体に排出が分散する製薬企業にとって、これは実効性のある削減を推進する上で重要な要素となります。製品カーボンフットプリント（PCF）は、原材料の採取、API製造、製造、流通、使用、廃棄に至るまでの医薬品のライフサイクル全体にわたる温室効果ガス排出量を定量化するものであり、推進剤、エネルギー使用、包装などのホットスポットの特定を可能にするとともに、エコデザインやグリーンケミストリーの推進に役立ちます。これと並行して、拠点レベルのカーボンフットプリントは、各施設におけるスコープ1および2排出量、ならびに割り当てられたスコープ3排出量を測定し、再生可能エネルギーへの転換、熱の電化、効率改善、投資優先順位の設定を支援します。

これらのアプローチを組み合わせることで、科学に基づく目標設定イニシアチブ（SBTi）などのフレームワークとの整合に必要な透明性が確保され、ネットゼロ目標を具体的かつ実行可能な削減施策へと転換することが可能となります。

AstraZenecaのアプローチ

AstraZenecaは、より広範なAmbition Zero Carbon戦略の一環として、カーボンフットプリントの測定および管理に関するデータ主導のアプローチを構築しています。AstraZenecaの方法論は、ライフサイクル思考、科学に基づく目標、社内指標、外部との連携を統合し、バリューチェーン全体における気候影響の低減を図ります。

AstraZenecaは、ISO 14040/14044/14067および温室効果ガス（GHG）プロトコル（製品）に基づき医薬品のライフサイクル評価（LCA）を実施し、原材料調達から製造、包装、流通、使用、廃棄に至るまでの製品ライフサイクル全体における炭素排出量を含む環境影響を把握しています。これらのフレームワークは当社の方法論を支え、LCAおよびPCF評価における一貫性と信頼性を確保します。

LCAは製品の持続可能性戦略に反映され、温室効果ガス排出量の削減効果が最も高い施策の優先順位付けに寄与します。

AstraZenecaは、研究開発および製造においてグリーンケミストリーの原則およびプロセス質量強度（PMI）などの資源効率指標を適用し、エネルギー使用量、資材使用量、廃棄物を削減することで、製品関連の炭素排出量の低減に貢献します。

製品LCAの構築を支援するため、当社はActivateプログラムを通じて取得したサプライヤー拠点レベルの排出データ（温室効果ガス、水、廃棄物）およびサプライヤーから直接提供されるPCFデータを活用しています。

サプライヤーのベストプラクティス

拠点レベル（製造施設における排出量）および製品レベルの双方において、温室効果ガス排出量の測定・管理・削減を行うための、構造化され再現性と透明性を備えたアプローチを構築します。

拠点レベルのカーボンフットプリント

- 年次温室効果ガス（GHG）インベントリ（スコープ1・2および関連するスコープ3）
- 第三者検証
- エネルギー源別内訳（電力、ガス、蒸気）
- 排出係数および算定手法の明確な開示

製品カーボンフットプリント

- PACT手法に基づき、標準化された形式でPCFデータを共有。
- 医薬品向けPAS 2090:2025基準に準拠
- 化学製品向けTFS基準に準拠

追加リソース

[AstraZenecaの製品持続可能性](#)

WBCSDによるPCF向けPACT手法
PACTは、バリューチェーン全体においてPCFデータを交換するための標準化された相互運用可能な手法として構築されています。PACTでは、ISO 14040/14044/14067および温室効果ガス（GHG）プロトコル（製品）を含む主要な国際基準に準拠してPCFを算定することが明確に求められています。

[PAS 2090:2025](#) - 医薬品におけるライフサイクル評価の基準

[PAS 2090:2025 - 技術ガイダンス](#)

[PAS 2090:2025 - サプライヤー向けFAQ](#)

[PAS 2090:2025 - インフォグラフィック](#)

[PAS 2090:2025 - プログラムの概要](#)

チームの能力向上に向けた[PSCIのLCAトレーニング](#)

[Together for Sustainability \(TfS\)](#) : 化学サプライチェーン向けPCFツールキットPCF導入の第一歩を支援するため、TfSは有用なリソースおよびトレーニング資料を一元的に提供しています。

製薬サプライチェーンにおける拠点レベルのカーボンフットプリントおよび脱炭素化計画の策定を支援する[Activateプログラム](#)





バイオマテリアル

背景

バイオマテリアルとは、化石資源ではなく自然由来の有機資源（バイオソース）から製造される材料であり、バイオプラスチック、バイオ溶剤、バイオ燃料などに用いられます。しかし、自然由来の資源を調達することで温室効果ガス削減が可能となる一方で、さまざまなリスクへの曝露が高まる可能性もあります。

当社は、切替を促す炭素削減効果が実質的かつ検証可能であることを担保するとともに、「自然」および「人」に関連するリスク要因を意思決定に組み込むため、バイオマテリアルに関するガイドラインを策定しました。

AstraZeneca のアプローチ

- 1. 透明性** - バイオマテリアルの製造に使用される原料については、数量および生産地（少なくとも国レベル）を開示し、常に把握できる状態である必要があります。
- 2. 食料安全保障** - 低所得食料不足国（LIFDC）からの第1世代原料（専用作物）の調達は禁止しています。
- 3. Chain of Custody (CoC)** - 原料を正確に分類する必要があります。SBTN の高影響コモディティリストに該当する原材料由来のバイオマテリアルについては、分別管理（Segregated）または同一性保持（Identity Preserved）の CoC を満たす供給源を、今後段階的に求めていきます。
- 4. 認証** - 資材が持続可能に調達されていることを担保するため、第三者認証の取得を求めます。特に、森林破壊ゼロ、土地利用転換の回避、労働権および人権の尊重を重視します。認証要件は原材料ごとに異なります。

サプライヤーのベストプラクティス

バイオマテリアルがポストコンシューマー廃棄物由来である場合、新たな環境負荷を伴わないため、関連する自然リスクは本質的に低いです。原産国および自然関連の生産リスクは該当しません。

これは、使用済みバイオ由来製品（廃食用油）、家庭系食品廃棄物、都市ごみなど、消費者使用後に発生する廃棄物を指します。

追加リソース

定義

ポストコンシューマー廃棄物

「ポストコンシューマー材料とは、製品の使用に由来する材料を指す」

「製品の最終使用者である家庭、商業・工業・公共機関等から発生し、本来の用途ではもはや使用できなくなった材料」

プリコンシューマー廃棄物/副産物

「プリコンシューマー材料とは、製品の製造過程に由来する材料を指す」

「製造工程の過程で発生し、主流の製品フローから外れた材料」

農業および加工における廃棄物/副産物は、プリコンシューマー材料に該当します





自然

本ガイドは、自然由来コモディティを間接的に調達する、または事業活動の中で自然との関係を内包するサプライヤーを対象としています。主要原材料の直接サプライヤーについては、すでに持続可能な調達プログラムへの関与が進められています。

背景

すべての事業は、直接的に見えない場合であっても自然資本に依存しています。受粉、水質浄化、気候調整、土壌の健全性といった生態系サービスは、業務運営、供給の継続性、およびコスト安定性の基盤となっています。

自然との主な接点の例：

- 紙・包装：森林破壊や土地利用転換に関連する繊維原料の調達
- 食品・ケータリング：生物多様性の損失、水使用、温室効果ガス排出に関連する農産物
- 水使用：地域の流域の健全性や生態系のレジリエンスに影響を与える事業用水・水道用水
- 施設・物流：汚染、廃棄物、温室効果ガス排出に関わるエネルギー、土地、資材
- 製薬関連原料：薬用植物、農産物由来原料、その他の自然由来原材料（気候変動や資源枯渇の影響を受けやすい）

サプライヤーのベストプラクティス

AstraZeneca の間接調達に関する詳細なベストプラクティスは現在策定中であり、今後のコミュニケーションにおいて期待事項および指標を共有する予定です。

現時点では、サプライヤーに対し以下の対応を推奨します：

- 間接カテゴリーと自然との関係を整理（マッピング）し、上流サプライチェーン全体にわたり自然リスクのスクリーニングを実施します。
- 森林・農業関連コモディティについて原産地までのトレーサビリティを確立し、EUDR および関連する労働デューデリジェンス法に整合させます。
- 原生林、泥炭地、生物多様性の高い地域を対象とする方針を策定し、期限付きで実施するとともにサプライヤーによる遵守状況を検証します。
- KPI を設定し進捗を開示するとともに、自然関連リスク管理において認知されたフレームワークを活用します。

追加リソース

- [AstraZeneca の持続可能な調達フレームワーク。](#)
- [WBCSD Nature Action Portal](#) : ベストプラクティス、実装ツール、ネイチャーポジティブ戦略に関する業界別事例については、WBCSD のガイドを参照してください。

AstraZeneca のアプローチ

AstraZeneca は、Worldfavor を通じたサプライヤーエンゲージメントに基づき、トレーサビリティ、森林破壊・土地利用、水資源管理、汚染・廃棄物、温室効果ガス排出、人権、動物福祉、ガバナンスを対象とした原材料別ロードマップを策定しています。

AstraZeneca の間接調達に関する原材料別の定義は現在まとめ段階にあり、確定次第サプライヤーに共有される予定です。

現行の取り組みを見直すにあたり、企業は [AstraZeneca の持続可能な調達フレームワーク](#) および以下の重点項目を活用できます：

- トレーサビリティと透明性の高いガバナンス
- 森林リスクコモディティに関する EUDR 整合の実務
- 水資源管理および流域レベルでのリスク管理
- 汚染防止、廃棄物最小化、循環性
- 土地利用の影響を含むスコープ全体での温室効果ガス削減
- サプライチェーン各層における人権および動物福祉の保護措置





持続可能な調達

背景

「持続可能な調達」とは、「組織が物品、サービス、工事およびユーティリティに関するニーズを満たすにあたり、ライフサイクル全体を通じて費用対効果を確保しつつ、環境への影響を最小限に抑えながら、組織のみならず社会および経済にも恩恵をもたらす方法で実施されるプロセス」と定義されています（ISO20400:2017-持続可能な調達）。

サプライヤーのベストプラクティス

1. **サプライヤー行動規範**を策定し、その実施を証明できること。
2. 戦略の策定および評価に関する明確な持続可能性の指針を有すること。
3. サプライヤーに対し、持続可能性に関する明確な RFP（提案依頼書）要件および評価・選定基準（例：サステナビリティの加重スコアリング）を提示すること。
4. 行動規範の遵守、監査権、情報開示/報告、サブコントラクターへのフローダウン義務、重大な違反に対する是正および契約解除に関する標準化された契約条項を整備すること。
5. サプライヤーパフォーマンス管理（SRM）プロセスに持続可能性を組み込むこと。
6. 調達部門における持続可能性能力向上計画を策定すること。

追加リソース

調達に持続可能性を組み込むために、Sustainable Procurement Pledge（SPP）が策定した[ガイド](#)。

[EcoVadis Sustainable Procurement Barometer 2024](#) は、購買優先順位の変化、持続可能性追跡ツール、サプライヤーとのエンゲージメント手法、ならびにこれらの要素の社内プロセスへの統合の重要性を示しています。


[ISO 20400](#) ISO 20400 および持続可能な調達に関するグローバルな実務コミュニティ

[持続可能な調達（SP） | 持続可能性の強み](#)

AstraZeneca のアプローチ

- 当社の持続可能性に対するアプローチおよび年次の取り組みについては、「[Our Sustainability Impact](#)」レポートに詳述しています。
- 当社は、社内の倫理規範をサプライチェーンに適用可能な内容に落とし込んだ[第三者向け行動規範](#)を整備しています。
- 当社はウェブサイト上に [Supplier Sustainability Hub](#) を設置し、持続可能性要件に関する明確かつ最新の情報、インサイト、支援プログラム、サプライヤーガイドおよび [Supplier Sustainability Newsletter](#) を通じた研修機会、ならびに問い合わせ窓口を提供しています。
- 調達プロセスにおける評価において、持続可能性に対し 10% のウェイトを必須としています。
- 契約条項に持続可能性要件を組み込んでいます。
- 優先サプライヤー認定の基準として、SBTi へのコミットメントを採用しています。
- サプライヤー間の持続可能性比較を容易にするため、LENS PowerBI 持続可能性ダッシュボードなどの社内ツールを開発しています。
- [持続可能性の観点で不適切なサプライヤー](#)を明確に定義し、それらを管理するプロセスを整備しています。





セクション4：追加
リソースおよびサポート

追加リソース

サプライヤー向け持続可能性関連リソース：

- **Sustainable Healthcare Coalition** | 協働を通じて医療分野における持続可能な実践を促進する機会を探求する、医療業界主導の団体
- **Sustainable Procurement Pledge Beyond The Guide Deepdive** | 医薬・ライフサイエンス分野
- **Embedding Project** | 企業が業務および意思決定全体に持続可能性を組み込むための有用なリソース
- **PSCI 成熟度モデル** | 各種持続可能性領域における成熟度を自己評価するためのモデル

脱炭素化リソース：

- **スコープ3 ピアグループ** | 急速に進展するスコープ3のベストプラクティスやガイダンスを共有し、連携して迅速かつ確実に取り組みを進めるための枠組み
- **WBCSD リソース** | The Climate Drive
- **企業のネットゼロ実現に向けた道筋**
- **Pharma Net-Zero Delivery Playbook** | 本 PSCI プレイブックはこれまでの取り組みを基に、医薬品開発ライフサイクルに対応する7つの影響領域にわたり、24の具体的な排出削減施策を提示

中小企業（SME）向けリソース：

- **SME Climate Hub** | 中小企業が気候変動対策に取り組み、将来に向けてレジリエントな事業を構築することを支援する非営利のグローバルイニシアチブ



追加サポート

FAQ をご確認のうえ、
AstraZeneca の [Supplier Sustainability Hub](#) より
お問い合わせください。

SBTi リソースラ
イブラリは [こちら](#)
からご利用い
ただけます。

EcoVadis ヘルプセ
ンターは [こちら](#)
からご利用い
ただけます。

CDP ヘルプセン
ターは [こちら](#)か
らご利用い
ただけます。

